Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.9(2021 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

社会科の先生方の選書です！

『ブラタモリ』シリーズ
NHK「ブラタモリ」製作班

「清水の舞台から飛び降りるような・・」という慣用句の元にもなった、京都の清水寺。今でも年間 600 万人も観光客が訪れる人気スポットですが、何と千年前の平安時代からすでに人気だったそうです。その人気の秘密は、観音さまの住む場所に関係しているのですが・・全国各地の歴史のある場所を訪れて、学問的にその魅力を探り当てる NHK の人気番組。この本を紐解いて、あなたも歴史や地理を好きになってみませんか。

こちらは体育科の先生方が選びました！

『大人も知らない！？　スポーツの実は・・・』監修：白旗　和也

じつは、卓球のラケットって「どんな大きさのものを使っても良い」そうです。すごく大きなラケットを選手が持ってると「ずるい！」って思わず言っちゃいそうですが、よく考えてみると大きけりゃいいってもんじゃないですよね、振りにくいですから。この本は、こうしたスポーツの「じつは」を集めた雑学集です。

『身近な電磁波被ばく』
家庭栄養研究会、網代　太郎ほか

今や家庭でも学校でも無線の LAN が当たり前のように強い電磁波を発しています。2020 年からは第 5 世代通信システム（5G）が都市部を中心に始まり、多くの基地局が建てられて、より強力な電磁波に私たちの身体は取り巻かれるようになりました。しかし、この本は日本と日本政府のこうした方向性に強い警鐘を鳴らしています。電磁波の被ばくは脳や遺伝子に悪影響を与えると言うのです。さて真相は？ちなみに、その危険性からベルギーのブリュッセルやスイスでは 5G の導入は見送られています。

英語科選書！『基礎から学ぶ英語プレゼンテーション』　杉橋　朝子

来年度からの英語の新科目 「論理・表現Ⅰ」には、新しい時代にふさわしくプレゼンテーションが授業に取り入れられます。「プレゼンだけでも難しいのに英語でプレゼンって・・」って尻込みしてる場合じゃありません。時代に遅れないように、しっかり取り組みましょう！この本はアイコンタクト始め、プレゼンの基礎が満載です。ただ、全文英語ですが(*ᴗ ᴗ)ᵐᵐ

家庭科の先生の選書はこちらです！

『「アンコンシャス・バイアス」マネジメント』　守屋　智敬

こんな経験ありませんか？「友だちに良かれと思ってやったのに、裏目に出た。」「まったく悪気がなかったのに傷つけてしまった。」・・人の脳はストレスを解消するために、無意識に自分にとって都合の良い解釈を生み出します。これが「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」なのです。人間関係をうまく築いていくためには、まずは自分自身の偏見を洗い出さなくてはなりません。人間関係に悩んでいる人は、ぜひ。

数学・情報科選書！『マンガでわかる世の中の「ウソ」から身を守る』　下村　健一

問題です。ネットの URL などにある「ドメイン」として以下から一番信頼度が高いのは？

①.ac.jp　②.biz　③.info

そう、答えは①ですね。大学などの学術団体が使うドメインになります。この本を読んで、この情報化社会にはびこる「ウソ」対処法を磨こう！

『現役獣医師が猫のホンネから不調の原因までを解説！家ねこ大全 285』　藤井 康一

ネットで人気の獣医師の本で、猫の習性や気持ちが分りやすく解説されています。また「子どもの免疫力が高まる」「悲しい気持ちを人間より癒やしてくれる」など、猫を飼うことのメリットも目からウロコ。

『むき出し』　兼近　大樹

お笑い芸人の兼近氏は中卒という学歴ですが、読書が趣味で芥川賞を取った芸人の又吉直樹にあこがれ、自分も芸人になりました。この本はそんな彼が出した初の小説ですが、かなり自伝的傾向が強く、主人公の石山大樹は兼近大樹自身と共通する部分が大きいです。不良だった少年時代から、これまでの兼近氏の山あり谷ありのリアルな人生が「むき出し」に描写されているような小説なのですが、最後には生きる勇気を与えてくれるような構成です。

西加奈子の最新刊**『夜が明ける』**もお勧めです。

国語科の選書『マンガ 論語と孔子』
竹川弘太郎（著）、 ももなり高（イラスト）

孔子は「聖人」、その教えをまとめた『論語』は「聖典」のような扱いを以前の日本では受けていました。時代が下って現代では、むしろ「生身の人間」としての孔子に人々は関心を寄せるようになっています。この本は孔子の一生を分りやすく解説してくれるので、漢文の必須教養である孔子の理解に最適です。歴史にも役立ちますよ。

今号のひとこと

「子供だまし」を一番見抜くのは子供だと思うんですよ。※　　すぎやま　こういち（1931-2021）

この８月の東京オリンピックの開会式。選手の入場が始まると流れてきた音楽は、すぎやま氏の作曲された『ドラゴンクエスト序曲』でした。コンピュータゲームのための音楽は、「オタク」の文化として、「主流文化」より一段低い「下位文化（サブカルチャー）」とみなされてきましたが、オリンピックの開会式という世界最高の舞台で演奏されたのです。ゲーム音楽が、日本の主流文化に格上げになった瞬間でした。思えば、ジャズや漫画も、かつてはサブカルチャーでした。優れた演奏家や漫画家により、それらは主流文化となりましたが、すぎやま氏亡き後、その意思を誰かに継いで欲しいですね。

※1990 年、NHK 総合「ミッドナイトジャーナル」より